

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600057		
法人名	有限会社 エーエスマディカル		
事業所名	グループホーム えんなり		
所在地	愛知県江南市上奈良町天王252		
自己評価作成日	平成28年 2月21日	評価結果市町村受理日	平成28年 6月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2393600057-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ内に医療機関があることで、日々の体調の変化や、体調急変時に柔軟に対応ができることで、ご利用者様、ご家族様に安心して過ごして頂ける。
また、グループホームでの対応が難しくなった場合の受け入れ先としても、グループ内での連携により対応させて頂くことが可能。ご家族様の負担軽減に協力できる。
また、調理部分を施設内厨房で給食委託業者に依頼することで、管理栄養士の監督のもと、毎日の栄養管理面についても安心して頂ける。糖尿病食、腎臓病食等、食事制限のある方の受け入れも可能。施設屋上に入居者の方専用の屋上庭園、施設内1Fにフィットネスルーム、喫茶スペース、娯楽スペースもあり、運動不足の解消、気分転換、趣味活動の継続等にご活用頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は地域に根ざした病院であり、多様な介護施設を展開している。家族も、『母体が病院で安心』との理由で選択されている。病院を主体に、1階のデイサービス、2階のショートステイ、3階のグループホームを揃えた複合施設で、予防の時期から重度化迄を住み慣れたエリアで過ごしている。
利用者も9人中5人がデイサービス、ショートステイの卒業生である。デイサービス、ショートステイから馴染みの関係でホームへ移り住み、重度化して行く中で医療行為の必要に応じ病院に移り、老人ケアの入り口からターミナルまでをエリア内複合施設での支援を目指している。
医療機関に併設されたホームであり、健康・医療面で迅速な対応が取られている。様々なケアサービスにおいても、法人の施設が利用できて法人内連携の良さがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はあるが、業務にあたる際に念頭に置いて業務につけているかは十分ではない。	法人としての理念『ここからはじまり、本当に一日』を活かしたホーム独自の方向性を模索中である。開設から4年を経過し、職員の衆知を集めてホーム独自の理念を策定中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加や近隣の児童施設との交流を持つ等は行っているが、日常的な交流は持っていない	地域の行事(左義長・神社の筆祭り)に参加している。障害児デイサービスの子供が踊りを披露に来訪し、法人の夏祭りは地域の方々も参加して盛大である。看護学校の実習生の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、症状や対応についての話をすることはあるが、地域の方に向けての実施はできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加いただいている方々からの意見がなかなか出にくい、ご意見をいただいた場合は事業所で検討し可能な限り対応するようにしている。	出席者・開催回数共に基準をクリアしている。参加者からの意見は中々出にくい状況にある。区長より町内行事の説明、地域包括支援センターより他の事業所での事故事例等の報告がある。	ホームの主役の利用者、ホーム運営に長けている知見者(他ホームの管理者等)の参加により話題が広まり、参加者より活発な意見の出る会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ連絡・相談等の連絡を取っている。市の開催する管理者の会議に参加し情報収集を行っている	運営推進会議に地域包括支援センターの参加、介護相談員の受け入れにより、ホームの状況は役所窓口で理解されている。市の主催する運営推進全体会議に参加し、情報収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実績はないが、理解を深めるための勉強会などの機会が不足している	玄関の施錠は『介護度の低い利用者が多く、離設の不安が』との家族の要望があり、開錠には至っていない。職員が手薄な時にスピーチロック(『ちょっと待ってね』等)に陥る事があるが、管理者は拘束にならない様に意識付けをしている。	勉強会の機会に『指定基準に定める禁止行為(施錠も含まれる)』を今一度職員全員で確認し、『安全を求め即施錠』の考えでなく、例えわずかな時間でも開錠して利用者が自由を味わえる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが虐待防止について気を付けながら日々の業務につけているが、学ぶ機会が設けられていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会の確保が十分ではない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明と署名印鑑の他、介護報酬改定時には別紙同意書を作成し、改めて署名印鑑をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて頂いたご意見について、職員へ伝え、可能な限り実践している	家族アンケートは全9家族が回答し、足の遠のいている家族、お任せきりの家族は見当たらない。家族の来訪も頻繁で、日常の来訪、家族会、運営推進会議、病院受診等、家族から意見を聞く機会は多くある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議、2ヶ月に1回の施設全体の会議を設け、事業所と施設全体の問題点の解決について職員からの意見を業務に反映させている	職員が意見・要望を述べる機会は、月1回のミーティング、カンファレンス等有る。利用者に足を延ばせる場所をと『リビングの一角に畳のスペース』、利用者への慰問にと『月1回の歌声喫茶』等が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、評価をもとに昇給等の実施を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内などを掲示板に貼りだし、希望者の受講を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江南市主催の管理者会議、包括支援センター主催の交流会に参加し、情報交換等を行っているが、現場職員の参加ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様から可能な限りの本人様に関する情報を頂き、コミュニケーションの題材や対応のヒントとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の意向確認と、入居後の本人の様子の報告など、入居直後は特に配慮して行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分ではない。担当ケアマネジャーやご家族様から相談や申し込みをいただいた時点で、お受けする前提で対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の周りの事等、できる範囲をご自身に依頼し、共同生活を認識して頂けるよう対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の同行や、本人の様子を見ての面会依頼等を行い、協力していただいている。外出や行事の同席も依頼し、可能な限り本人と一緒に過ごしていただく時間の確保を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については制限をせず、自由な面会の場を設けているが、馴染みの場所へ出向くといった援助が十分にはできていない。	お花の先生へはお弟子さん、良く面倒を見た娘の友達等、馴染み人の訪問がある。娘・息子が付き添って、馴染みの喫茶店や北の神社の筆祭り等へ行っている。馴染の人と場所の関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方にできる事の検討と提案を行い、孤立感や劣等感を感じないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはその後のサービス利用の希望についての確認を行い、グループ内での対応が可能な場合には提案を行っている。また、別施設に入所の場合にも、必要な情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り行っている。	喋らない利用者には、入浴時や就寝前の居室での1対1の心を開いて接する時間を大切にしている。『家に帰りたい』という言葉が家族に伝え、『本人は家で仕事を手伝っているつもり』と、帰宅が実現した利用者もいる。	苦勞して『思い』を叶えた事例は多くある。この『思い』を職員間で共有し、カンファレンスを通じて介護計画に連動させる工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居に至るまでの経緯をスタッフに伝え、入居後の対応の参考としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員からの意見、評価や、毎月作成しているモニタリングをもとに、介護計画を作成している。	家族・利用者の思いや要望を聞き、月2回のカンファレンスで検討して介護計画を作成している。モニタリングを月1回行い、家族に『モニタリング報告書』を送付して実施状況の確認を行っている。	『個別ケア』は、思いや意向を反映させた『その人らしさ』の出た介護計画の作成から始まる。『その人らしさ』の感じられる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや様子について記録に残しているが、それを十分に計画に反映させることができていない。気づきや問題点として挙げられ、情報として共有していてもそれについての十分な話し合いができていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んではいるが十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌などを見て、地域の行事への参加を目的とした外出支援を行っている。また、ご家族にも依頼して、在宅時に通っていた店や病院、外出先に出かけていただくようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主にご家族の意向を確認し、入居前の主治医の継続、グループ内の病院への変更を支援している。その他の病院へかかられる際にも必要に応じて職員対応での受診支援を行っている	利用者9人中6人が協力医(法人の病院)をかかりつけ医として受診している。協力医以外は基本、家族対応であるが職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム配属の看護師はいないが、必要時には施設内の看護職員が状態観察を行い、受診の必要性の判断を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できている。グループ内の病院へ入院された際は特に連絡を密に取り、状態の変化や低下等が極力見られないように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に行っている。重度化の場合は協力医療機関への診察・入院を説明。	ホームは重度化手前の支援を受け持っている。入居前に、重度化・終末期の場合は法人内病院への住み替えを説明している。開設から5年経過し、3名の利用者が病院で亡くなられた。入院後にはお見舞いに行き、お葬式にも参列している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できているが、定期的な訓練は実施できていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や避難経路や避難誘導の方法の確認を消防署職員立ち会いのもと行っている。	年2回消防避難訓練を行っている。消防の立ち合いの下で夜間想定・日中想定で消火訓練・避難訓練を行っている。消防署から、『建物が3階であり屋上に避難が良い』とのアドバイスを受けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係にはなれてきているが、馴れ合いの関係にもなりつつある部分もあり、言葉遣いに注意を促している	利用者に対して人生の先輩として尊敬の意を忘れず、言葉使いに気を付けている。入浴・排泄介助の際は羞恥心に配慮している。個人的な事が利用者に聞こえない様に、個人情報取り扱いに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の促しを行い、可能な限り本人の意向に即した対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意向の確認を行い、意思表示して頂ける方については意向に沿った対応ができているが、意思確認の難しい方については十分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際の服選びから意向を確認し、季節に応じた服装の中で本人の意向を尊重している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、調理レクを行うことにより、入居者の方と一緒に調理をする時間も作っている。盛り付け、片づけ等は手分けして協力して行っている。	法人内厨房で調理され運ばれてくる。利用者の『力量・要望』に合わせ、味噌汁の具材切り、盛り付け、食器洗い・拭き等の役割を担っている。職員も一緒に食事を摂り、家庭的な食事環境を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事量の記録と定時の水分補給を行っている。好みに応じ、厨房と調整しながら提供する食事を変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。確認や清掃が困難な場合には歯科受診の提案等、家族とも連絡を取り合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できている	排泄チェック表を活用して利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導でトイレでの排泄を支援している。誘導回数を増やして、『リハビリパンツから布パンツへ』、『パッド使用量の減少』等の改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。排便の間隔を記録し、確認が取れていない時は腹部の張りの確認などを実施。受診時のドクターへの報告や、ご家族への整腸剤等の依頼も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間での入浴実施回数は決めてしまっているが、入浴日や時間帯については本人の意向を確認した対応を心がけている	週3回の入浴を基本とし、入浴拒否の場合は言葉のかけ方を変え、時間を代える等柔軟に対応している。季節を楽しむ入浴の工夫もある。重度の場合は法人の機会浴使用も可能であるが、現在対象者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出、買い物の他、入居者全員で季節に応じた外出先に月に1回のペースで出かけている。	日常的に日用品の買い物・ホーム外周の散歩等がある。季節的な外出(桜・藤・あじさい・紅葉等)が月1~2回あり、家族参加の年1回の遠足(おちよぼ稲荷)もある。厳しい評価を受けがちな家族アンケートは回答者全員が満足(ややも含む)と答えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の保管は職員が行っているが、外出先での買い物などは本人の意向で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族側の負担につながらないように配慮しつつ、行っている。電話の使用や手紙等のやり取りについての制限はしていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている	複合施設の玄関は、ホテルのロビーを思わせるゆったりとした感じがある。ホームは3階であるが、日当たりの良い庭に木製のベンチが置かれ、日光浴に最適である。壁面には行事写真・季節の掲示物があり、利用者と共に掃除もされて清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込まれる家具については、可能な限り自宅で使用していたものを持ち込んでいただくよう。依頼している。追加で持ち込み家具の持ち込み依頼をする場合も同様。	使い慣れた箆笥や神棚・犬や猫の置物等が持ち込まれている。利用者と共に掃除をし、清潔で整理・整頓されている。孫の結婚写真が家族との絆を感じさせ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分ではないができている		